



分別チェックリスト

解体した部品は、きちんと分別して出荷します。それぞれにどんな特徴があるのか、表を参考にして分別しましょう。



パソコン基板

両面緑色。CPU、メモリは外す。電池、鉄、アルミは取り除く。コードは抜く（または切る）。



家電基板

裏側が茶色。電池、ヒューズ、鉄、アルミは取り除く。コードは取る（または切る）。



メモリ

基板から外したら、金メッキの部分をペンチで折り、それぞれ保管する。



CPU

セラミック（紫色）とそれ以外（緑や黒など）で分ける。



金つき部品

金がついている部品。充電の接触部、カードの差込口など。なるべく金以外の部分を少なくした状態にする。



基板フィルム（茶、白）

ペラペラした基板。引っ張れば抜けるので、なるべく切らないように解体する。



銅

赤っぽい。表面が銀色でも削ってみて赤かったら銅なので、迷ったらヤスリで削ってみよう。



ハードディスク

パソコン内部から取り出したら、最初に必ず傷をつけよう。



ドライブ類

パソコン内部にある、CDやDVDを入れる場所。細かいので解体に時間がかかる。



液晶画面

本体から分離させるだけでOK。コードなどなるべく切らずにおく。



電池・バッテリー

リチウムイオン電池、ニッケル水素電池、ニカド電池、携帯電話の電池などに分けられる。



磁石

鉄がつくもの。普通の磁石、鉄つき磁石、ネオジム磁石などに分けられる。



コイル

銅線が巻いてあるもの。プラなどがついていてもOK。



ファン

パソコンによくついている。線はつけたままでOK。



スピーカー

パソコンやラジカセなど音の出るものについている。線はつけたままでOK。



モーター

大きいものから小さいものまで色々ある。



家電線

中が銅線。コンセントのプラグなど、線の先っぽはつけたままでOK。



トランス

中が銅線。大きいものはこれだけで集めておく。



鉄

磁石に強くつく。なるべくプラスチックやステンレスは外して鉄だけの状態にする。



ステンレス

ピカピカ、曲げると戻ろうとする力が強い。磁石につくものとかないものがある。さびないので、水まわりの部品として使われることが多い。



アルミ

白っぽい色が多く、よく見ると髪の毛のような線が入っている。磁石につかない。曲げても元に戻らず、くにゃりと曲がる。または軽くて硬いものもある。



機械アルミ

磁石につかない。型に流した感じに成形されている。基板についているヒートシンクもここ。



しんちゅう（黄銅）

黄色っぽい。表面銀色でも折るか削るかして、切り口が黄色いものはしんちゅう。ラジオのアンテナに多い。



プラスチック

金属はすべて取り除く。裏に書いてあるABS、PS、PCなどの種類に分けるので、なるべくバラバラにしない。

(付 3)

個人情報漏洩防止管理手順

本手順は、群馬県障がい者福祉事業所レアメタルリサイクルネットワーク(以下、ぐんまレアメタルリサイクルネット)の会員事業所が実施する回収品の解体・分別業務において、当該品に含まれる個人情報の漏洩防止に係る適切な管理手順について定めたものです。

1. 回収時における当該品の確認

- (1) 当該品を回収する際には、「有価物引取り請書」(付 5)を用いて以下の事項を確認する。
 - ・当該品確認(メーカー名、品名、型番、製造番号、数量)
 - ・データ消去・破棄の対象となる当該品の有無
 - ・「データ消去・破棄証明書」(付 4)の作成の確認

2. データの消去・破棄作業

- (1) データの消去及び破棄は、ドライバーやニッパーなど鋭利な工具等による記録媒体(ディスク本体)の物理的な破壊によって行う。
- (2) 回収品の提供者から「データ消去・破棄証明書」の提出を求められている場合には、消去・破棄した状態の当該品をデジタルカメラ等で撮影し、写真添付する。

3. データ消去・破棄証明書の作成

- (1) 回収品の提供者から「データ消去・破棄証明書」の提出を求められている場合には、作業終了後、速やかに当該品に対する「データ消去・破棄証明書」を作成する。
- (2) 同証明書には、作業の実施日、実施場所、実施担当者、実施方法を明記する。また、当該品のデータの消去・破棄が確認できる写真を添付する。
- (2) 同証明書は、作業を担当した会員事業所の担当者が作成し、担当者欄に署名捺印をする。
- (3) データ消去・破棄の責任者は、作業実施事業所の個人情報管理責任者とし、管理者欄に署名捺印をする。

以上